

資料編 1

古写真および参考資料

第1 一体となって価値を形成する物件（第1章 計画の概要）および保存する建造物（第3章 環境保全計画）

●景石（黒ぼく石）〔書院造庭園内〕⑦-1

戸定邸を撮影した最古の写真である明治22年（1889）5月4日の写真に、黒ぼく石が写る。非現存の黒い板塀が続く様子も写っている（歴史館開館前の松平直子聞き取り調書参照）。



2-2-6-48 「明治二十二年五月四日松荘庭園撮影」 1889.5.4 江崎禮二撮影 戸定歴史館所蔵

●雨落ち溝〔表座敷棟南・西側〕⑧・沓脱石〔表座敷棟南側〕⑩-2

明治26年(1893)に撮影された写真から確認できる。また、下掲の徳川篤敬撮影写真から存在が確認できる。

「戸定邸日誌」明治18年(1885)3月26日条に「伊豆石踏段(與八ヨリ御買上ノ石)御座処前へ据付ニナル」と記される「伊豆石踏段」と同一と考えられる。写真史料上は、明治26年(1893)4月9日時点での存在が確認できる。



1-3-5-1-7「戸定邸」 1893. 4. 9 徳川篤敬撮影 戸定歴史館所蔵



1-3-1-2-12「水戸徳川家・高松松平家華族写真」1904. 4. 3 徳川昭武撮影 戸定歴史館所蔵



●土留め石〔表門西側、離座敷棟北側など〕⑨、(敷石〔表玄関前〕⑥)

表門内から玄関前までの敷石は、昭和初期の段階では切り石であり、これが根府川石に該当する可能性もある(要専門家聴取)。

「戸定邸日誌」明治17年(1884)8月27日条に「御玄関前敷石及土留石垣落成ス」とある。落成直後の段階で土留め石と玄関前の敷石が完成していたと判明する。「戸定邸日誌」明治18年(1885)8月13日・14日条に「ねふ川石其他石類東京ヨリ回漕、直ニ御玄関前へ据付ヲ始ム」「東京ヨリ回漕之ねふ川石等着ス」とある。写真史料上は、明治39年(1906)2月18日撮影の写真が初出。



左：1-3-1-3-164「厚男・仲博侯」 1906.2.18 徳川昭武撮影 戸定歴史館所蔵

右：1-3-7-9-28 戸定邸門内 戸定歴史館所蔵



2-2-7-21 徳川八重葬儀 1937.3.10 撮影 戸定歴史館所蔵

●沓脱石〔表座敷棟西側〕⑩-3

徳川昭武「戸定備忘録 第一号」明治18年(1885)3月26日条に「植木屋與八より買入候趾石、本日西椽〔縁刈〕側江居〔据刈〕付候事」とある「趾石」と同一か。

写真史料上は、明治36年(1903)8月時点での存在が確認できる。



1-3-1-3-121「松戸・小梅方々様」 1903.8.徳川昭武撮影 戸定歴史館所蔵

●手水鉢〔表座敷棟西側〕⑪・景石〔表座敷棟西側〕⑭

「戸定邸日誌」明治19年(1886)6月1日条に「藤原新田ヨリ御引取之桐、御鉢前へ植付タリ」とあり、これは表座敷棟書斎前の手水鉢前を指す「鉢前」と考えられる。

写真史料からは、明治38年(1905)4月28日撮影の写真に手水鉢、および景石とその上に置かれた獅子香炉の存在が確認できる。



1-3-5-2-90 戸定邸客間脇 1905.4.28 徳川達道撮影 10×14.5 戸定歴史館所蔵



● 灯籠〔表座敷棟東側〕⑫

「戸定邸日誌」明治18年(1885)8月21日～23日条に「会計前之棕櫚植替ヲナス」「株栲六本東京ヨリ持込メリ」「株栲会計前御庭へ植付ニナル」とあり、「会計前御庭」＝中庭(玄関棟)にシュロが植えられていたと判明する。明治41年(1908)に徳川昭武が撮影した写真には、現在も中庭(玄関棟)にある灯籠が写る。なお、東日本大震災の折に灯籠が倒れた後、復旧が行われたが、向きにまで注意が払われなかったため、向きを修正する必要がある。



左：1-3-7-9-36 1908. 徳川昭武撮影 戸定歴史館所蔵

右：2-2-6-38 1937. 11. 撮影 戸定歴史館所蔵

○〔参考〕池〔離座敷棟南側〕⑬、(沓脱石〔離座敷棟南側〕⑬-3)

池については、池自体は写っていないものの、大正前期の写真に池の石組の可能性のある丸石群が写っており、大正期から存在した可能性がある。

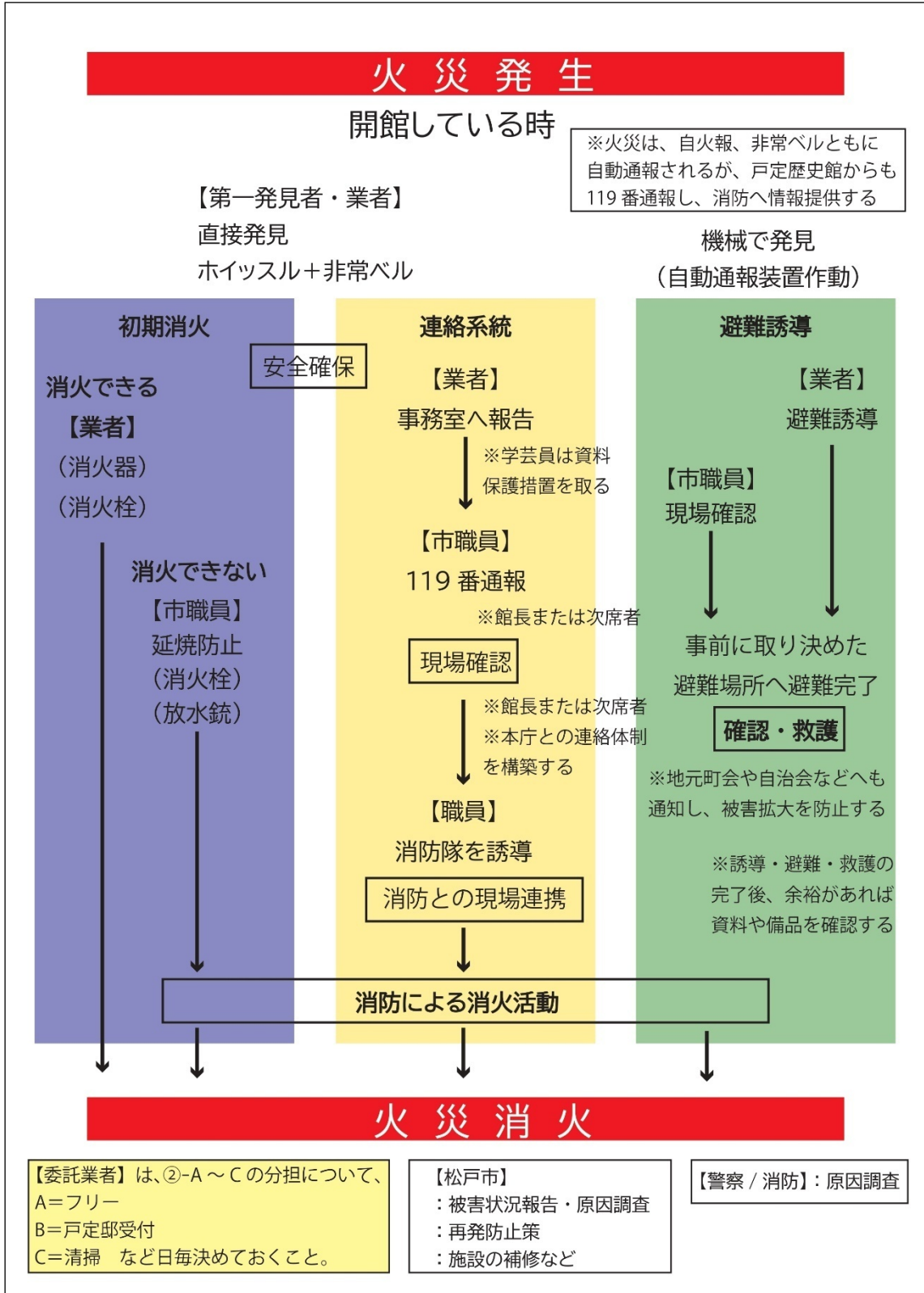
また、沓脱石〔離座敷棟南側〕と雨落ち溝、縁下、犬走りについてもやや不鮮明であるが確認できる。



1-3-7-1-33 徳川宗子と女性 戸定歴史館所蔵

第2 現状の消火体制（第4章 防災計画）

(1) 開館日





(2) 閉館日

